

おきなわ移住の輪



おきなわ輪
移住の輪
OKINAWA jiyu

事務局 沖縄県企画部 地域・離島課 地域振興班 TEL (098) 866-2370

平成 29 年 5 月号 (第 10 号)

ハイライト

- 6 月は移住促進に係る取組が多数予定されています！
- 平成 28 年度を振り返る座談会の模様を中編としてお送りします。

目次

- 平成 29 年度移住定住促進事業始動！ …1
- 沖縄県移住促進事業に係る座談会レポート《中編》 …2
- 全国の移住情報を発信する施設「ふるさと回帰支援センター」のご紹介 …4

平成 29 年度移住定住促進事業始動！

来る 6 月実施の各種取組に向け着々と準備が進められています！

- ・ 2 日(金)「地域の世話役養成塾 第 0 回」自治体向け説明会
- ・ 9 日(金)～11 日(日) 3 日間連続開催「移住セミナー&相談会」(於:東京)
- ・ 21 日(水)「平成 29 年度第 1 回沖縄県移住受入協議会」



沖縄県と自治体主催の移住セミナーチラシ



5 月に入り、移住定住促進事業の動きが活発化してきました！まずは「地域の世話役養成塾」開催の為、自治体向け第 0 回地域の世話役養成塾を 6 月 2 日に実施致します。移住者受入れ等の課題整理や世話役候補の発掘、呼びかけ、連携等について研修会を行います。

また東京に於いて 3 日連続の移住フェア、移住相談会(主催・共催)を行い、移住希望者に沖縄移住の PR とニーズの把握を行います。現在準備に沖縄県、参加自治体で協働して鋭意取り組んでいます。



地域の世話役養成塾(昨年の様子)

6 月 21 日には沖縄県庁 12 階会議室に於いて平成 29 年度第 1 回受入協議会を開催致します。新年度初回の為、新しく関わる方々との顔合わせも含め、移住受入の取組に活かせる情報発信の重要性とその方法について、各担当者よりお話をさせて頂く予定です。

平成 28 年度第 2 回受入協議会の様子(29 年 3 月)

今後の予定

【移住フェア】

- 6 月 11 日(日)
山口・九州・沖縄 暮らしフェア (東京)
- 7 月 29 日(土)
ふるさと回帰移住フェア(大阪)
- 9 月 10 日(日)
ふるさと回帰フェア(東京)

【沖縄移住セミナー(移住相談会)】

- 6 月 9 日(金)
- 6 月 10 日(土)
- 9 月 8 日(金)
- 10 月 22 日(日)(予定) (東京)
- 11 月 4 日(土) (大阪)

【平成 29 年度第 1 回沖縄県移住受入協議会】

- 6 月 21 日(水)13:00～
沖縄県庁 12 階於て
- 【地域の世話役養成塾】
- 6 月 2 日(金)自治体向け第 0 回地域の世話役養成塾

平成 28 年度沖縄県移住定住促進事業に係る座談会レポート《中編》

～ 「おきなわ移住の輪」サイトと Facebook、 県内外の移住促進事業の動向、沖縄への移住希望者の動向 ～



前号に続き県と各市町村担当者等による、平成 28 年度の移住対策の取組を振り返る座談会(平成 29 年 3 月 27 日於:県庁会議室)の様をお送りします。

のは良い数値なのではと思います。次に検索エンジンを使ったキーワード「沖縄 移住」での検索結果順では、オープン当初は 30 位でした。民間や一般の方の移住関連サイトやブログサイトが強く、常に上位を占めていますが、その中でも「おきなわ移住の輪」は現在 5 位。行政による沖縄移住ポータルサイトとしては上位といえます。



移住応援サイト「おきなわ移住の輪—結—」

—参加者—

沖縄県地域・離島課 金城明子さん	渡名喜村総務課 桃原さん
久米島町企画財政課 島袋さん	(株)ルーツ 平田さん(受託事業者)
石垣市企画政策課 遠藤さん、後上里さん	ふるさと回帰センター 嵩さん(受託事業者)
宮古島市まちづくり振興班 友利さん	S&L United 株式会社 島袋さん(おきなわ移住の輪—結—運用者)
国頭村商工観光課 新垣さん	
国頭村地域おこし協力隊 東さん	司会 沖縄県地域・離島課 又吉班長
うるま市企画政策課 伊佐さん	(以下、敬称略)

「おきなわ移住の輪—結—」を始めとするインターネット利用による PR について

—移住応援サイト「おきなわ移住の輪」についての閲覧状況、そのための工夫についてお話しください。



島袋(S&L United) 昨今様々なプロジェクトにおいてホームページを立ちあげたものの、月日が経つうちに更新が滞ったりうまく運用されていない例も珍しくないんですが、「おきなわ移住の輪」の場合はオープン後地道に

良いサイトになっていると思います。4 月のサイト開設から今では閲覧者が 5 倍になりました。順調に増えていますね。これはある程度プロモーションをしながら、サイト更新、Facebook ページのオープンなどの取組が効果的に働いているからだと思います。移住を目的としてこれだけの人がサイトを見に来てるとい

—リピーター率はどうでしょう？

—サイトにはどんな人が見に来ていますか？

島袋(S&L United) スマートフォン利用者が半分以上で今後もメインと言えるでしょう。各市町村で今後情報発信にホームページを活用されると思いますが、モバイルで見やすいように意識して情報発信されると良いと思います。一方で PC ユーザは今後減る傾向です。性別では男女差半々です。年齢層では 25～44 歳が中心です。

—出身、居住地別ではわかりますか？

島袋(S&L United) ピンポイントではわかりませんが、閲覧者の住んでいる場所というより利用しているプロバイダ経由でアクセスが多いのは東京、大阪です。県内からのアクセスはオープン当初 1 位でしたが、途中から東京大阪が逆転してきました。これは県外の方に情報を届ける目的としては成功しているということを示していると思います。

—多く見られているページは何でしょう？

島袋(S&L United) どのサイトでもそうなのですがトップページが圧倒的に多いです。それを除いて多いとなると市町村マップ、沖縄移住ステップ、移住者インタビューです。仕事のページを見ている人も増えてきています。トップページにはスクロールして下部に市町村のいろいろな情報も載っているので、その分もトップページの閲覧数に含まれています。今後市町村の方は情報発信をホームページ上でされと思いますが、閲覧者にいかに強く興味を持たせ、自分たちの地域の詳細ページへリンクで飛ぶようにさせるか工夫が重要になると思います。

島袋(S&L United) 半分くらいはリピーターです。これは良い感じですよ。

——ネット上で市町村が発信した情報のうちで、反応の手ごたえがあったものがあれば、情報共有したいのですが。



新垣 国頭村のお見合いイベント「ちゅらこん」の参加者をサイト上でも募集したのですが、それを見て参加した県外からの女性が何名かいらっしゃいました。

島袋(S&L United) 市町村のお知らせがネットに掲載されることで、何らかの効果はあると思っています。ぜひ各市町村さん独自の情報も情報発信して頂きたいと思います。

——仕事のコンテンツもよく見られているとのことですので、市町村の嘱託募集情報などをサイトを使って県外の方にもアピールされてはいかがかなと思います。

金城 サイトを見て県外の方が応募して採用となるなど、結びついた事例が今後出るとより良いですね。

——Facebook についてお話し下さい。

島袋(S&L United) SNS の拡散を利用してツアーや相談会をどんどん広めて集客するミッションがあったので、それには Facebook が適していると思って 11 月に導入しました。これまでトータルで 110 記事掲載しています。11 月から 2 月末まで記事を見て「いいね」を押した方の数が 504 件。この数字は 500 人にしか届かなかったのではなく、裏の友達まで記事がいくということなんですね。いいねを押した 500 名から広がって、リーチ数は 56,000、これはつまり 56,000 人の目に届いたということになります。今後も力を入れていきたいと思っています。

——Facebook を使って市町村さんが情報発信する上でコツなどありましたらアドバイスをお願いします。

島袋(S&L United) 市町村の関連記事を引っ張ってきてシェアする方法がおすすめです。オリジナルの投稿は難しく、いつでもネタがあるわけではないので、リンクを活用して紹介するような投稿をすると良いと思います。

嵩 ちなみに参考として、2 月の相談会でのアンケート結果によるとホームページを見て参加したという方も数十件いましたので、ネットの効果はあったと思います。



島袋(S&L United) 今年度はイベント関連の募集を全て「おきなわ移住の輪」サイトから行いました。これによって参加者が増えたのかどうか実際現場を見ていないのでわからないんですけど、効果は見えただすよね？

ているように思います。



平田 そうですね。昨年度の沖縄移住相談会は 70 前後の参加者で、今年度は 100 近くいっていますので効果はあったと思います。それでいて会場がぎゅうぎゅうになるということもなかったのは、ネット上で予約を取って時間を区切ったからまんべんなく集客できたのではないかなと。人は増えたんだけど混雑は避けられたと思います。

島袋(S&L United) ちなみになんですが、最近ではネット上で検索キーワードに直接市町村名を入れているようです。「石垣」「宮古」という言葉が圧倒的に多く見られていますね。

——友利さん、宮古圧倒的に多いようですよ。

友利 確かに宮古島への問い合わせは多いですね。

金城 特に 3 月 4 月は多いですね。

——次年度はぜひ宮古島市も移住相談会に参加して下さい。

——市町村から出したお知らせは自動的に「おきなわ移住の輪—結—」Facebook 版に紹介されるという仕組みになっているんですよね？

島袋(S&L United) そうです。今年度は市町村のお知らせがホームページにあがっていたものを Facebook にも掲載していました。今後は「おきなわ移住の輪」に掲載した記事は自動的に Facebook にあがる仕組みにしたいと考えています。

県内自治体の移住対策への取組状況について

——平田さん、先にあったように今年度の相談会と去年度との比較があがりましたが、他のイベントを含めて県内自治体の取組状況を昨年度と比較してお話し下さいませんか。

平田 昨年度初めて私どもがやらせていただいて、初めは結構手探りだったりしたんですけども。最初市町村の方にまずは参加頂くという使命という役割があったかと思うんですけど、そこに注力したのが昨年度ですね。



当時はとにかく移住促進事業に係る場に出てきて頂くようにしていましたが、今年度に関して言うと、市町村側から発信することも促していきました。全体として一歩踏み込んで進んできているように感じます。今日の座談会でも各市町村さんで独自に移住対策を進めていらっしゃるのを見てきたのが大きいと思います。外から見るとそもそも沖縄は知名度があるというか、ブランドがあると思いますが、それを県、市町村でどう受け止めるかが課題なのは今後も変わらないと思います。それからこういった座談会などの場があって皆さんと話し交流しながら情報共有しあえるということは昨年度と大きく違うと思います。あと特に市町村さん自身が発信して、それに答えなければいけないという責任意識が出てきているようにおもいます。

地に足つけていかないと移住推進事業が打ち上げ花火みたいに一瞬で終わってしまう懸念も感じています。そうならないので届けるべき人に届け、取り組んでほしい方に取り組んでいただきたいです。

——平田さんが市町村へ個別に入ってみたいの現場での動きの感想を教えてください。

平田 昨年度は人口減少への危機感を受けての相談を受けることが多かったです。移住推進への本気度の違いに地域で差がでたのが今年度だったと思います。年を経て協議会の顔ぶれが変わってきましたので、見直すタイミングでちゃんとやっていきたいと思っています。

今年度取り組んでほしかったところが思ったようにいかなかったところもあるのですが、各地でそれができない事情もあり、そこも見えてきたのでサポートしていきたいと思っています。移住促進だけでなく、他も含めた地域おこしとかに行くまでの地ならしが必要な地域もあるので、そのツールとして移住促進をきっかけとして動きを始めていきたいと思っています。地域によってはまだそのタイミングでないところも見えてきて、各市町村の色というか状況がくっきり見えてきた感じが今年度でした。

——突出してるところは先へ進んでいるけれども、それは一部の状況だということですね。嵩さんにお聞きしたいのですが、こういう状況を踏まえて他県と比較した場合沖縄は遅れているほうなのでしょうか？沖縄は41ある市町村の中で今進んでいるところとい

うのは4、5か所くらいですかね。

嵩 一概には言えませんが、他県も自治体内で温度差があります。進むところは進んでいて、差が広がっているのが現状です。進んでいる島根県は置いておいて、他の県もその中で4、5市町村が突出しています。それは沖縄と似ていると思います。やっぱり沖縄の場合は危機感がなかったというのもあると思います。そもそも沖縄は特殊で、やらなくても人が来ています。他県はやっぱりダメだとあきらめているところもあるのですが、やればなんとかなるという意識付けで動いているところもありますね。そこで危機感を沖縄の市町村に伝えたかった。どこまで伝わったかはまだよくわからないのですが、それが表に出て見えてくるためには、各市町村自らが移住促進に取り組んでいただく必要があると思います。例えば担当者自身に意識があっても、住民が地元の人口減少、町の今後はどうなるかなどの共通認識がないと今後そこは厳しいと思いますね。



沖縄への移住希望者の動向は？

——沖縄への移住希望者の動向を教えてください。

嵩 沖縄県は、ふるさと回帰センターへ前の年までブースを出していなかったので動向データはないのですが、相談会やそこに情報があれば人は来ています。しかしせっかくブースがあって宣伝

できるのに現状情報が足りないで大変もったいないと思います。久米島町の例のような市町村で作成された移住情報の制作物があれば、興味ある方が持って帰って次のアクセスにつながるといいますので、市町村さんにはそういうのを作ってほしいです。もう一つ、世話役を今後どんどん広げていきますので、その受け皿作りをして頂きたいです。例えば昨年度の国頭村でモニターツアーをきっかけに、移住者を紹介したくても住居が足りないと気付いて住宅を作ろうという次のアクションに繋がったというのもありました。ほかの自治体では県がそこまで熱心でないところもありますし、ルーツさんのような民間が入っているというのも含め、沖縄県は体制も整ってきて積極的に取り組んでいると思います。

終わりに

今回は座談会レポート最終回をお送りします。各市町村独自の取組や地域おこし協力隊について等、多岐に渡って情報交換した内容を予定しております。

移住情報発信施設をご紹介します！ NPO 法人ふるさと回帰支援センター

東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 8F



ふるさと回帰支援センターHPより

東京都千代田区有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」では、田舎暮らしや IJU ターン、田舎と交流をしたい方をサポートすることを目的に、それに係るパンフレットや資料を常設しています。また会議室を利用した移住セミナーや相談会を各自治体で実施しており、沖縄県も県内自治体とセンター主催の移住フェアへ参加したり、県主催のセミナー、相談会も年数回



行っています。今年度も6月、9月、1月に県主催の移住セミナー(相談会)を行う予定です。センターには沖縄県専用の展示ブースもあり、移住関連のパンフレット等を設置しています。こちらに自治体の資料、パンフレットを設置希望の場合は、沖縄県地域・離島課までお問合せください。

写真左)沖縄県専用のブース